

(様式2)

平成 29 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1592400087		
法人名	株式会社ユーワ		
事業所名	グループホーム悠々の杜		
所在地	南魚沼市坂戸6-3		
自己評価作成日	平成29年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年10月17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の敷地内には数十本の桜の木が植えてあり、春には利用者はもちろんのこと、地域の方々にも楽しまれています。目の前には坂戸山がそびえ立ち、季節やその日の天気による移り変わりを見ることができ、自然に囲まれた環境にあります。

- ・利用者の認知症状の理解、生活歴や性格、一人ひとりの思い、できる力を大切にしています。施設での生活が自由にその人らしい生活を過ごしていただけるよう「自分だったらどんな介護を望むのか」と利用者の気持ちに寄り添い個別ケアを一番に取り組んでいる。
- ・食事の準備や盛り付けを一緒に取り組み、ときに旬の野菜・山菜を使い行事やお楽しみ会を計画して、利用者・家族・地域の方と食事とおやつ作りをして交流の機会を作っている。
- ・利用者の希望を聞き、近くの食堂やすし店へ外食やケーキを食べに出かけたり、晩酌を楽しんだり、気分転換ができるように職員も一緒に取り組んでいる。
- ・地域のサロンや(お六の会)さいの神など行事に呼んでもらったり、施設の行事に地域の人に来ていただき交流をしたり、認知症や介護について相談も受けている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム悠々の杜」は既存の建物を再利用した同一法人が運営する介護付き有料老人ホームの1階に位置しており、事業所の中から、桜や紅葉等が楽しめ、季節感を感じられる環境にある。開設して9年目を迎え、事業所では「職員自身の家族を入居させたいかどうか」をキーワードとした取り組みを進めている。

地域との関わりも、近隣の60～70代の方が主催する「お六の会」という地域のサロンに参加して交流をもったり、運営推進会議の中で地域の方と交流の機会を持ったり、避難訓練を実施するなど、利用者への理解が深まるように取り組んでいる。

また、事業所が魚野川の近くに立地しているため、水害への備えが重要であり、水害を想定して介護付き有料老人ホームの3階を避難場所とする避難訓練を実施している。

事業所では、専従の職員8名のほか、新人職員も含めて管理者を中心にチームワークよく利用者支援に取り組んでいる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年3月、理念について職員間で話し合う機会を作り、何を大切に利用者へ向き合うのか確認しながら理念の見直し実践につなげている。	開設時からの理念を見直してより現状に即した内容に変更し、実践を始めたところである。月1回の定例会議の中で「自身の家族を入居させたいかどうかを」キーワードにして職員間で振り返りを行った。理念の内容を継続しつつ提示方法を検討して今年度の取り組みにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンへ毎月参加している。事業所の行事の案内を作成し地域の方々と交流の場をもうけている。地域の一員として総会や回覧板を回し交流の機会が増えるよう努力している。介護相談の案内も回覧板に載せている。	近隣の60～70歳代の方のグループが主催する地域のサロンへ月に1回参加している。事業所でも作品展や収穫祭を実施して近隣との交流に努めている。調査日当日にも柿の収穫の誘いがあり、利用者と職員で参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンとの交流時に認知症の接し方や勉強会を行っている。随時、地域の方から認知症の相談もうけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には利用者・家族・区長・老人会長・市役所担当者が参加しており、事業所を身近に感じてもらえるようなテーマを決めて2ヶ月に1回開催している。事業所報告した後、助言やアドバイスしてもらいサービスの向上に活かしている。	5月の運営推進会議は近所の蕎麦屋で実施し、通常の報告のみならず交流の機会にもなった。また、福祉についての勉強会や介護相談なども絡めるなど、意義のある会議となるよう工夫している。参加しやすい雰囲気づくりに努め、事業所の現状を伝える機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の介護サービス事業所会議に出席し意見、情報交換を行っている。推進会議や事故報告等の提出時、事業所の取り組みを介護保険係の担当者へ報告・相談し指導していただいている。	市の担当者とは、日常的に電話やメールで連携を取っている。第3木曜日が市主催の定例の介護サービス事業所会議となっており、管理者変更等の情報共有や研修、事例検討などに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアの研修に参加し、職員全体で勉強し、マニュアルも見直し、作成した。現在、新規の方が離脱する可能性が高い為、玄関センサーを使用している。	新規利用者が無断で外に出てしまう場合が多いことを勘案し玄関センサーを設置しているが、方法や時間などを検討しながら使用している。朝と夕方のミーティングを活用して利用者個々の生活全般の把握、職員間の連携強化による職員の孤立防止、玄関センサー等の使用の検討などを行い、身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者一人ひとりに対して尊厳を持って接することができるように言葉遣いには注意している。職員の心的ストレスにも配慮し、1人で困難事例を抱えこむことがないように、管理者は職員へ声を掛けるようにしている。	新人職員が困難ケースを抱え込むことがないように配慮している。職員の個性に応じた業務分担をし、利用者支援に当たっている。また、管理者は利用者へかける適切な言葉(例)を提示して言葉による虐待が起こらないよう職員を指導している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設する事業所の管理者より制度について学び理解した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族に事業所の援助内容、変更事例等も理解と納得を得て契約を交わしている。また、意向や要望を取り入れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	4月の観桜会で家族と懇談会を開催し職員と意見交換も実施し、一緒に話し合うことができた。ご利用者・家族から意見、要望をお聞きし改善に努めている。	通信に写真を掲載することにより、利用者が理解しやすいようにしている。事業所が懇談会やアンケート調査を継続する意向を家族に伝えるとともに、隣室者との関係改善、ポータブルトイレの設置に関することなどの本人や家族の要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定例会や毎日のミーティングの際意見や提案を聞くようにしている。事業所内で解決ができない課題は管理者が会社の代表に要望意見を報告し改善に努めている。	月に1回の会議での意見交換や、管理者が日常的に職員の提案を聞く機会を持っている。また、管理者は8名の職員の勤務調整業務においても、職員の意見を反映させる機会として捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議でグループホームの実績や労働条件等報告して職場環境整備をしている。勤務シフトの見直しやスケジュールの調整等相談には随時応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修にはなるべく多くの職員が受講しスキルアップに努めている。毎月の定例会には、研修報告を行い職員全体で研修で得た知識を日々の業務やケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会と研修に参加した際に他施設職員との交流のなかで、情報交換や訪問の機会を持つことができている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問に伺い担当職員や市の担当者などさまざまな立場の方から情報を得るようにし、入所後もご利用者が安心して生活できるように努めている。また、一人ひとりの置かれた状況や不安を把握し柔軟な対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集と御家族との面談に困っていること、不安に思っていることなど要望をお聞きし、安心して施設入所してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況や家庭環境などにより、早急に対応しなければならない場合もある為、緊急時は空き室があれば柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや、不安、喜びなどを知ることに努め、共に、分かち合い・支え合える関係作りに留意している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができる事、事業所ができる事等をお互い確認しながら計画を立てている。電話連絡や手紙で報告を行い、家族と密接な信頼関係が構築できるよう努めている。	家族に対しては、行事の際の役割の依頼や、正月とお盆に利用者が外出や外泊を希望する際の相談のほか、季節ごとの衣替えの連絡などを行っている。家族(孫等)からのプレゼントに利用者がお礼の電話をすることを支援するなど、利用者との絆を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院や衣料店の利用をしてもらっている。また、他施設へ入所している兄弟の所へ面会に行ったり、兄弟の畑へ野菜を収穫に出かけたりと馴染みの人・場所が途切れないように支援している。	入居者は近隣の方がほとんどで、馴染みの関係が継続できる環境にある。通常は、家族との関係が中心となっているが、利用者の同級生の方にお茶のみや温泉への同行をお願いして関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士がよい関係を築けるように職員が架け橋となったり、席を工夫し孤立せず利用者同士のかかわりを支援している。利用者同士が居室の行き来ができるように場面作りにも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への住み替えが必要になったときは、ご本人の状況や情報を細かく伝えるように努めています。住み替え後もご家族からの手紙などで、様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望・意向の把握に努め、それに応じた声かけや接し方をするように心がけている。	アセスメントにはセンター方式のシートを使用し、利用者の思いや課題の把握に努めている。シートへの追記や更新の手続きを定めて職員誰でもが同じようにできるよう事業所全体で取り組んでいる。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅訪問をしたり、センター方式を活用しご本人・家族・関係者などからこれまでの生活の把握に努めている。	入居時の自宅訪問や、本人・家族からの聴き取りにより、これまでの生活歴等を把握している。入居後に知り得た情報も追記して、事業所での生活に役立てている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、利用者一人ひとりの身体・精神状態・生活リズムを把握し、状態の変化が合った場合に早急な対応を心がけケア内容や介護計画の見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は計画作成者が担当職員とともにアセスメントを行い3ヶ月ごとにモニタリングを実施している。ご利用者・家族の率直な言葉が盛り込めるように家族と日程調整をお願いし参加していただいている。	介護計画は、計画作成担当者と担当職員がアセスメントを行って作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを実施している。介護計画には本人や家族の意向が盛り込まれ、職員だけでなく家族等の役割も明記されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は6W1Hを基本に気づきや工夫など実践できたことの結果として残し職員間で情報を共有している。記録を基に介護計画の実施と評価を行っている。また、確認箱を設け出勤時は必ず記録物に目を通すことを徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合もあり受診や買物の代行を行っている。ドライブ・サロンでお茶会・外食の計画をご利用者と職員で立てて実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の意向を踏まえたドライブ外出、近隣の足湯、地域の行事、桜や菊祭り、雛飾り見学など季節を楽しみながら外出支援できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医が継続できるよう連携し、往診も行ってもらい支援している。家族が遠方の場合依頼があれば受診の代行もしています。内科と歯科は協力医療機関があります。	入居前からのかかりつけ医を継続できるよう、医師と連携して支援している。一方で、今後の利用者の状態変化を見越して24時間体制で対応してくれる医療機関への変更をお願いした利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤していない為、併設している有料老人ホームの看護師へ相談している。医療機関へはその都度状態を報告し連携をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供し、入院中は定期的に病院を訪問し状況を確認しています。退院時は、医療機関より情報を得て、状態にあわせた対応ができるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化への対応として4月に家族と職員で話し合う機会を作り事業所の取り組みや家族の思いを確認することができた。併設施設の特浴槽利用等も必要時には、協力体制を整えている。今後は、地域の関係者とチーム支援を検討していきたい。	利用者の週末期に向けた対応のあり方について、家族と話し合いを行っている。事業所での看取りを希望する利用者については、特殊浴槽の使用など併設施設との協力体制を整えており、南魚沼地域在宅医療推進センターとの連携も検討中である。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時用のマニュアルに沿って対応できるように定期的に訓練し、実際に起きたときに冷静に確実な情報を伝えることに努めている	急変時の対応マニュアルに沿った訓練を、月に1回及び新人職員が入職した時に実施している。インフルエンザのために衰弱した利用者を夜間に緊急入院させた事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回併設している有料老人ホームと合同の避難訓練、消火器や非常通報装置の取り扱いについて実施しています。地震や水害についてもマニュアルを作成し、施設内で月1回は訓練をおこなっている。	事業所が河川に近いので、水害時の備えが必要であり、7月の運営推進会議では水害を想定し同一建物の3階の有料老人ホームを避難場所とした避難訓練を実施した。また、玄関の他にもう1ヶ所の非常口を確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴・居室内など個人のプライバシーを守り、記録は事務所で記入個人情報の取り扱いに注意している。一人ひとりに合わせた言葉掛けに取り組んでいる。	認知症の実践者研修に参加した職員がリーダーとなり言葉かけや対応の工夫を重ねており、利用者が心穏やかに過ごせる対応をキーワードにして取り組んでいる。以前、外部評価で助言のあったケース記録の記載については、個人情報の保護のもと、必ず事務室内で記載するように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にご利用者に関わり、ご利用者の思いをお聞きしています。遠慮されてないか等、ご利用者の表情や言動に注意して傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調を考慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、モーニングケアでそれぞれ髪を整えたり、髭剃りができるように支援している。外出する際は行き場所を話して、本人気に入った服やスカーフ、帽子等を選んでもらい外出支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食盛り付けは職員と一緒に準備している。下膳やテーブル拭きのご利用者をお願いしている事をしてもらっている。てんや物を取り、好きなものを食べて楽しんでもらっている。	食事はクックチル(チルド保存した食材を再加熱する方法)を主に活用しつつ、部分的に事業所で作ったりしている。利用者には買い物から調理、盛り付け、後片付け等と一緒にしてもらっている。利用者の要望に応じて外食や店屋物をとる機会もつくり、食事を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の記録も行い、状態に合わせた飲料や飲みやすいカップ等の工夫をしている。食事量の減少などが見られる場合には、医師に報告・相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下体操、毎食後口腔ケアの声かけ・介助本人の状態に合わせ支援をしている。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握できるよう、必要な方は排泄チェック表を記入している。適度に誘導することで失敗することなく、トイレで排泄ができるように支援している。	必要な方には排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握している。下着に尿取りパットを使用することで極力オムツを使用しないように取り組んでいる。また、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者については、家族からの要望を受けて、トイレでの排泄を支援する方向で検討中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便確認・記録し、便秘の予防として繊維質の多い食品、乳製品、水分が多く取れるよう好きな飲料で摂取してもらっている。また散歩や運動を取り入れて、自然排便を促すように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は基本的に午前中を目安として行っているが、希望や状態に合わせて柔軟に対応している。楽しめるよう、入浴剤・柚子湯を導入している。	利用者の希望や状態に合わせて入浴を支援している。夏季は毎日の入浴を実施しているが、寒い時期は利用者が疲れるとのことで入浴の回数が減っている。入浴を希望しない方には、間食の後などタイミングをみて声をかけるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり睡眠が取れるように湯たんぽや低反発のクッションを導入して安楽で気持ちよく休息が取れるようにしている。不眠傾向のご利用者には足浴を行ったり、温かいお茶を準備したり寄り添うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルし職員が確認できるようにしている。薬の変更時は本人の状態を把握し医療機関と連携が図れるようにしている。薬剤師からの講習会をもうけて、薬の一人ひとりの注意事項や視点を理解することができた。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野で一人ひとりの力が発揮してもらえるよう掃除・洗濯・縫い物・編み物・手工芸等、職員が一緒に取り組み支援している。飲酒が楽しみなご利用者にはノンアルコールビールで晩酌の日をにちを決めて楽しみをもって生活してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の意向を踏まえたドライブや外出、近隣の散歩を行っている。また花見や菊祭り、雛飾り見学など季節に応じた外出支援も心がけている。	月曜日と木曜日を買い物の日として大型スーパーや衣料品店などへの外出を支援している。夏場には近くの足湯へ出かけており、また、家族の協力を得て出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方もいらっしゃいます。買い物に同行し支払いの出来る方には行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家庭状況により、毎月、塗り絵やカレンダーを作成し孫に手紙と一緒に送付し交流ができるように支援している。家族からプレゼントや便りがとどいたときなど希望時に電話で会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物をご利用者と一緒に育てたり、野の花と一緒に飾り季節感を感じてもらえるよう心がけている。ご利用者同士トラブルや不安がないようその都度対応し、居心地のいい空間作りに努めている。	既存の建物を改修しているため空間に制限があるが、ソファや椅子等の配置を工夫したり、リビングの隣に独立した部屋をおき、利用者が個別に憩える配慮がなされている。また、室内から外の桜や紅葉等を眺めることができ、利用者の目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが限られているが気のあったご利用者同士で過ごせるよう、玄関ホールやレクレーション室にくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの食器や写真タンス等を持参頂き、安心と居心地よく過ごしてもらえるよう家族と相談して入居を向かえている。	居室は和室と洋室があり、希望に応じて選択できる。いずれも窓が広くとられ、明るい雰囲気があり、利用者を中心に、家族や職員が協力してその人らしい居室づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子の高さや居室を畳の部屋に変更したりとその人にあった環境を整える努力を行っている。環境の見直しを実施して、トイレの電気は自動にした。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				